

新しい企画が好評

2005年代々木病院健康まつり

11月6日(日)、代々木病院健康まつりはあいにくの曇り空のなか終日入波が途絶えることなく約1,300人が参加、東館駐車場は、会場いっぱい紅白の幕がまつりを盛りあげました。

今回は、3つの町会の掲示板にまつりのポスターを貼らしていたが地域に広まった中で開催となりました。「こもつくる医療」―地域と家族と医療者とをメインテーマに掲げ、「あらぐさ座」の銚子はやうちの太鼓を合図に開会。

今回も千駄ヶ谷大通り商店街振興組合の後援をいただき牛久保理事長から「住民の医療のために貢献していただいただけでなく12月に開かれる商店街の餅つ



あいさつする高津司院長



千駄ヶ谷大通り商店街振興組合・牛久保理事長も

きにも参加してください、一緒にやりましょう」とのあいさつに共感の拍手が寄せられました。



あつぎのオープニング



お薬相談・健康チェックコーナーで



透析室の焼き鳥コーナー

友の会会員の作品展は、66点の書、墨絵、俳句、パッチワーク、写真、布画が展示され多くの人が見入っていました。平和のための戦争展には、千人針などの戦時中に使用した遺品が展示され、渋谷区の大

前々日から準備した焼きそば、フランクフルト、もつ煮込み、豚汁、ハヤシライス、焼き鳥、生ビール、観葉植物の販売、フリーマーケット、コーヒーなどの模擬店では、「おいしいよ」のかけ声が飛びかき、唇には完売の感涙が溢りました。新婦人渋谷支部の新鮮な産直野菜や化粧品、お

肌乾燥度チェックも客足が絶えませんでした。東京土建渋谷支部の包丁研ぎには、200丁もの申し込みがありました。

入院中の患者さんにも「入院中にもまつりに参加できるなんて最高。若い職員ががんばっているね」と好評でした。

近所の方は「病院の敷地でやるまつりっていいですね。年々催しものが増えて皆さん楽しんでくれたね」と話して参加した若い職員からは「忙しかったけど楽しかった」の声も。友の会の方々、患者さん、ご近所の方々と職員が楽しく交流できた1日でした。(写真4・5面にも)

実行委員会事務局 布施 仁
写真・岸本正義

健康チェック豆知識(最終回)

糖尿病を調べる血糖検査

40歳以上の日本人の7人にひとりが糖尿病といわれています。糖尿病で怖いのは、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞など、命にかかわる病気を引き起こすことです。また、初期段階には自覚症状がないため、健診での検査結果が早期発見の決め手となります。健診は必ず受けましょう。



糖分を調べる空腹時血糖・随時血糖・HbA1C検査があります。空腹時血糖は食事をとらないで行った血糖検査で、随時血糖は空腹

HbA1Cは、過去1〜2カ月の血糖の平均値に比例した数値です。この数値が正常範囲を超えた場合は、ただちに受診し、医師の指導を受ける必要があります。

糖尿病がすすむと①のどが渇く、やたらに水を飲む②尿の量が増え、回数も多くなる③よくおなかがすき、たくさん食べる④急激な体重減少などの症状が出てきます。こんな症状があったら、すぐに受診しましょう。

中村正夫グループによるフラメンコもミュージック音楽院の歌と演奏も大盛況でした。今回初めて実行委員会企画として「あなた

読者コーナー

■もう一つの答え
杉並区・大崎潤一

答えは「医師多忙」？みんなの命と健康のために病院内外で奮闘中の医者さんたちががんばれ！

■チャレンジしたい
所沢市・小林正之

11月号の松永先生の「禁煙チャレンジ」の記事読みました。新聞によると「たばこを吸う人の7割がニコチン依存症で、このうち7割は禁煙を試みながら失敗している」と。政府も世論に押されて、遅まきながら「ニコチン依存症」を病気と位置づけ、医療

■援助を受けて
栃木県・本田ツネ

保険を適用するのとこととです。欧米ではすでに行われているそうです。禁煙にチャレンジしたいですね。

■俳句
ヒバクシャの会の昂ぶり秋時雨
モズ猛る今年は耳につくほどに
調布市・菅 貞夫

(代々木なろう会秋の旅)
紅葉活け客を迎ふる温泉宿かな
踊り子の天城の山の薄紅葉
調布市・小澤みつを

「禁煙チャレンジ」の答えです。
《応募方法》ハガキに「くらしと健康」編集部まで。正解者のうち年齢を明記のうえ、〒511-8556東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30

《しめきり》12月末日(発表2月号)
《11月号の正解》タイシボウ(体脂肪)
《当選》小林ふみあ(茂原市)・村野陽太郎(昭島市)

※お便りや絵手紙もお待ちします。掲載分には、図書カードを差しあげます。



血糖を測るときは材料 血圧計に入っている
たくさん食べてを化変 熱い口こそそく勝の温具